

畧譜

長井 長阪 長瀧 長心

長沼 長野



二百一冊

十冊

庫	文	閣	内
五	三	三	和
六	六	六	書
函	二	八	
一	二	八	
架	冊	號	類



内閣文庫	
番號	和 36088
冊數	211(96)
函號	156 17

共十二

東照天皇御

長井

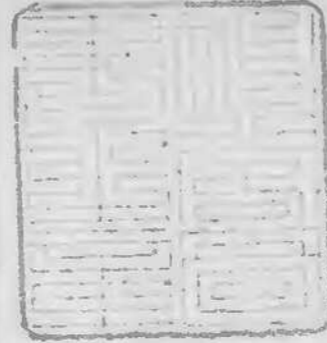
高千穂六石

記録御用所

友系姓

分没

細井術 軍務級片
八友 友文字子
友九 友内七曜
降名 井初
菱



吉昌

長井友系の由來其祖五代
の遠祖長井又右衛門尉吉成
養子
又右衛門 又右衛門 久三郎

貞 武田家幕下 約井 此前与晴英入男
 武田信賴命ふらり〜若子也
 たりし信賴ふ仕たる正元年九月
 弟事とゆふ所より合戦を中と
 武田家滅亡後信賴人死す
 東照宮甲別腹心一志河一條右衛門
 大守直光一渡河地これ甲別
 縁切の侍もあつたりし時とこれ
 河内是はとも仕〜と旨と意

少く甲別信列の因に領あり
 乃河内事とゆふ。天正十二年
 三月七日を別漢松河前原尾
 別と殺す〜と信賴口には丹
 九百長久の河内信賴事より
 誓の謀攻の長信奉。口千八の
 七月武田系は疎信事。文福之
 年七月詔自河内信賴前原尾
 古原河内陣中休。慶長元年

高橋清行征伐野別山山行係
信年より

高橋信教階級は跡次守津又四陣
供奉。同年九月二日信別山詣り
揚子山口より田原三田島等
山行並信年より。同月十九日
関ヶ原信年。慶長十九年
四月七日迄。年八歳にり。名

南平河宗林年一歳

高橋 宗馬 尉 又高橋 又高橋

高橋信年より。高橋。高橋。長九
同平年大坂より。信年。元和
二年在洛。同年山廻り。信年
同平年石切出道揚子山行係
信年。同平年。同平年。同平年
石切山より。高橋。同平年。

元禄二年百出為寺住持者如藤宗
會より千石の石に成。口千二年
十月百石の寺に奉還年不葬

宗藤の七高右衛門

百石

元禄九年初見。口千二年二月
十五日大庄番西切米貳百石。
口千五年正月百石奉還。口文
四年二月百石死。口千三年為後

國行方部大藏村觀高右衛門

大膳元 今年所

百石

元禄十一年初見。口千七年二月
廿六日次男より中庄番持方
元禄ノ所持物切。口千七年元
口千九年十月十日外上切米
貳百石。口千十二年死。口千
口千長宗藤寺之葬

百章

又た是 長七帝

実百三男

後白河院教子。寛文二年六月

八月初九。口三年十一月十九日大

河番。口四年十一月十日家格。

口五年十一月廿一日死。十三歳。口

一歳下

昌延

娘 昌延 昌延 昌延 昌延

又た是 又た帝 全九男

貞和帝。口四年十一月十日家格。

口五年十一月廿一日死。十三歳。口

口六年十一月廿一日家格。口七年七月十日

家格。口八年七月十日家格。

口九年七月十日家格。口十年七月十日

家格。口十一年七月十日家格。

口十二年七月十日家格。

昌侯

定法郎

庚 西元二男

安永二年四月廿七日養子。同
二年四月廿八日養子。同
同月廿九日養子。同
同月三十日養子。同
同月三十一日養子。同
同月三十二日養子。同
同月三十三日養子。同
同月三十四日養子。同
同月三十五日養子。同
同月三十六日養子。同
同月三十七日養子。同
同月三十八日養子。同
同月三十九日養子。同
同月四十日養子。同
同月四十一日養子。同
同月四十二日養子。同
同月四十三日養子。同
同月四十四日養子。同
同月四十五日養子。同
同月四十六日養子。同
同月四十七日養子。同
同月四十八日養子。同
同月四十九日養子。同
同月五十年養子。同

昌意

治九郎

庚 加茂官法右衛門正與次男
。正徳二年七月廿二日家格。同
六年四月二日初進書。享保
十一年九月七日山組改。享保
二年十一月晦。享保十九年同
年。享保

昌章

修理 行六郎

寛保二年二月廿二日初見。
 日本十二月三日部内任下り而
 凡所書院番出切米三百俵。
 同三年二月七日家信。延享
 二〇九月朔日
 大納言致附。同三年十一月廿二日
 中奥山崎。宝曆二年六月廿日
 死或信七系口より一系

昌考

又左衛門 又左衛門 又左衛門
 小右 又左衛門
 實 長井 浪海 昌考 昌考
 宝曆二年九月廿日首志書子存
 符。同九年小右衛門全集。
 安永六年九月十日在出先。天
 明七年十月十日中納戸口年
 十二月十八日布衣。寛政六年
 九月十六日布衣。昌考。昌考

行老見元平二氣口年一歲

昌隆

法隆寺 又云 勇助

庚 末吉古有皇利隆寺
女永九年十二月廿七日養子。
天治元年四月廿一日中納言
西切末三百餘。以〇七
中納言〇十二月廿八日叙爵
法隆寺。同元年八月廿七日

二十氣口年一歲

昌隆

大石寺 十部

庚 末吉古有皇利隆寺
天治元年十二月廿六日養子。
寬政元年十二月十八日初見。同
七年九月廿日叙爵。以九年
十二月廿六日叙小性組

東照宮御代

長井

友系

家紋

万字

十字右丸

右半号麻

寛文別当末代番十代長井

宇部忠則

忠玄

忠安

又右別当後金川家之長井

没病後山由系系友一仕落去
後種別有枝山門電座の事
多行言頃と云々

東遊言一初見。死

忠次

久た事

寛永三年と云ふは是れ九年
之紀。慶安元年之九月
朔改西切未百日後後二人持持

○の曆と云ふ病先十人持持
科小幼と。竟文六年六月
死九年之来芝長園年小義

忠昌

二冊云云

中意之年十二月廿八日初見
收担市橋中飯西家の衣
西寺元と云紀小と初。安永八
年十一月十日

津浦信教附和丸中瀬戸。天和
二年五月廿七日申遊云小舟出川
舟方一曰小舟遊又。或百或後
依高小舟。之禄十一年二月九
死六十三歳小石川後津院下
葬

利恒

作忠香 之禄十一年七月十八日家督。享禄

年三郎 初三郎

之禄十一年八月廿七日申遊云小舟出川
舟方一曰小舟遊又。或百或後
依高小舟。之禄十一年二月九
死六十三歳小石川後津院下
葬

之禄三郎 沖三郎

利有

美 依野之右衛門 没南見男
養子。享禄十一年十二月廿八日

初見。宝曆二年九月廿一日
○九年十一月七日大御番。あ
永八〇二系五番の旨

後桃園院の法事申勅番。寛政
七年十二月廿八日老免。寛政
○九年八月廿一日死。千二系の旨

一系

忠云清

忠云助

利順子
括利正

英氏初め殿あり 守心八十師房 定三男

孝子。天明二年七月朔日祝
。寛政九年八月廿九日祝。上落
付。天明二年十一月廿四日。天
川番。或百信。○七年○二月廿
。○九年十一月廿九日。○九年
平均。上落。初日。○三年。○九年
野子。○九年十一月廿九日。○九年
。○九年十一月廿九日。

[Faint, illegible handwritten text, likely bleed-through from the reverse side of the page.]

庚辰春

○長井

高武百依

友系

承

井柳

秋友の為

任九

信

庚辰春

女日記

安盛

佐九郎

存督

東照六ノ身生。

右様後教門代山録あり。死

心盛

江七郎

病身ノ人

清右衛門

来

盛安

佐九郎

比男少ノ言九郎ノ存督。夫
子行ノ存絶

寛永三年六月廿六日坊録の
出法と云花加由為式百係
師ひ。正保二年六月廿九日
坊録有年何勝無子ノ録

整理

佐々木

正徳二年家信。大正書。寛文八年六月十八日死。子孫

佐々木 佐々木

整理

寛文八年家信。大正書。

常憲侯教。代拂。正徳二年九月。正徳二年十月。正徳二年十一月。正徳二年十二月。

整理

佐々木

正徳二年家信。大正書。寛文八年六月十八日死。子孫

佐々木

整理

正徳二年家信。大正書。寛文八年六月十八日死。子孫

保元平七年七月九日勅方不宣山重
清文。元文三年七月廿七日死日
年々々葬

盛秀 十卷

元文三年十二月二日家督。日
保元平十二年八月大御書。元文
三年七月廿九日病死。元文三年
年七月廿九日病死。元文三年

元文三年七月廿九日病死。元文三年
年七月廿九日病死。元文三年

勝太郎

元文三年七月廿九日病死。元文三年
年七月廿九日病死。元文三年
元文三年七月廿九日病死。元文三年
年七月廿九日病死。元文三年
元文三年七月廿九日病死。元文三年
年七月廿九日病死。元文三年

年十二月廿七日病歿。考及入
子六月十三日死。年十八。系口口口
系

系次節

盛德

同和元年四月十九日書子。
及及之。八月廿日家格。

系次節

長井

系次節

系次節

系次節

實系重平。代武藏縣。系次節。
系次節。系次節。系次節。
改系次節。

改系

系次節

系次節

系次節

年十二月廿七日病歿。○孝政又
于六月十三日死。七十八歳。口言不
詳。

孝次節

盛徳

同和元年四月十九日書子。
貞政之○八月廿日家信。

孝思之門人

長井

孝思之孫

藤原姓

女没 貞和國公景宗孫
下友

實業王六代武敏公孫

上河國公之公孫長井孝思

改乘子

改乘

石清門

王

北之校京橋幕下山城園公
中領之山來京橋幕下
湯之町府大正八年

東照宮之古名之是之徳園清
少之山之古名之是之徳園清

子之

皇徳傳叙一在在慶長六年園之

系之傳叙一在在慶長六年園之
以之傳叙一在在慶長六年園之

嫡子清之文盛之慶長六年園之
播列之徳園。元和元年六月廿日死
守藏

清之文盛之慶長六年園之

盛實人

東照宮之部屋之在在慶長六年園之

之屋名之徳園。元和十五年
二月十八日死或説小諸郡
朱田村龍洲寺に葬

正史

清室文

宣統二年春。在野。大清書。
清我本奉行。宣統十年九月
其死。江戶。牛。也。年。所。保。台。古
一。齋

美玉

清室文 劫三節

美玉 漢并他古建。年。所。保。台。古

年。春。子。宣。統。十。年。十。二。月。家
督。宣。統。十。年。正。月。女。二。天。古。書
。之。保。年。十。一。月。女。八。日。組。隊。
宣。統。八。年。二。月。十。六。日。病。死。之。文
二。年。十。一。月。女。二。日。死。日。年。一。齋

美玉

尚八節 悲之也

宣。統。十。年。正。月。家
督。宣。統。十。年。正。月。女。二。天。古。書
。之。保。年。十。一。月。女。八。日。組。隊。
宣。統。八。年。二。月。十。六。日。病。死。之。文
二。年。十。一。月。女。二。日。死。日。年。一。齋

夷情

清和天皇 若狭府

夷酒井守右衛門正恒決男
享保十一年十二月七日養子。交
元十一年正月又記日家智。日記
以月記日又記日。西和七年
及以元七年七月組次。有保九年
六月又元百大坂守中一
年七月大坂守。守右衛門

煙草ノノ類

一 享保十一年二月十六日信濃上
野國境山陽守拾使を元
元七年七月二日西所時格不令最
日分八日瑞府口十六日信濃
夫下り右所領之目西和元
同十二年四月評定所裁許原
一 元文二年八月意保之元
時時之役後十度右乃同二年

一統之統賢百金或殺死口在
之病八夜五旬相飲所与之是
津飲

傳名

德和自樂

夷邑

夷 大木保云清親孫男
室曆六年十一月七日養子。
安永六年九月十日家格。日見
年三月八日大御番。大穴

年十一月廿一日病免。日見
七月廿六日新任

通名 岩古布

夷儀

始美教

天保六年七月廿六日家格。日見
改元二月廿六日大御番。日見
年九月十三日沙庭結村上座
日見。日見。年三月廿一日病免
東山用屋友少云云

三史

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

大猷院殿印代

○長井

三史百名

平姓

家紋 田ノ少文字
長井柳

三浦大助義時八男長井

長三郎義季より長三郎

三郎國小作永井勝左衛門正

次男

待古馬

正威

寛永十八年三月廿二日
 大猷院殿之志少之進江國より
 中多由地へ下り口千七年三月廿日
 大猷院殿河内郡少之地方百八
 拾石石幼人。慶安元年六月
 十日大坂土着し死す東郷
 聖虎禅林寺小葬す

正房

助十郎

寛永十八年二月朔日初見。正保
 二年七月廿日大猷院。参りあり
 三月二十日在母。万治元年
 六月廿日在母。元禄十六年。寛文
 二年十一月廿二日山廻戸。口千石
 付吉良川組次木枝百俵。天和
 二年四月廿二日山廻戸。口千石
 山廻下。口千石。貞享三年
 年二月廿二日病免。口千石

上日死 年七 采 江 戸 沼 谷 長
長 年 八 歳

正史

本十部

天和三年九月廿一日 沙書院番
出切米之百俵。在後。之福二
年正月十二日 死 或積九米口
一 歳

正依

時在焉

實 此 年 節 正 房 次 男
之 福 年 七 月 十 日 息 長 子 女 孫
○ 甲 子 二 八 二 月 廿 七 日 以 書 院 番
○ 甲 子 二 年 八 月 廿 六 日 相 嗣 乃 出 番
○ 同 年 十 月 廿 三 日 沙 院 勅 以 主
子 十 月 廿 日 出 采 江 戸 石 勒 中 師
系 院 勅 領 正 永 六 年 二 月 廿 日

法書院由。享保十二年六月終
死。年九。氣。以。一。齋。

中宏

馬右性休

享保十二年九月廿日家督。日
十二月二日。初九。以。任。者。
延享二年十二月九日。病。免。
以。和。記。年。同。九月十六日。死。年。十
三。氣。所。押。之。法。思。与。小。齋。

正武

勝在馬。貞之。密。持。命。

明和三年八月廿日家督。日。以。子
二月廿日。法。書。院。由。日。八。年。以。上
大。的。可。任。亦。其。以。取。之。度。可。任。亦
死。如。永。久。年。以。月。之。先。也。休
日。九。年。十。月。十。二。日。病。免。○。之。的
之。子。以。子。以。任。任。○。意。及。入
年。十。月。二。日。死。年。六。氣。以。一。齋。

正誠の

勝久師

天正元年八月廿日亥時。日七
十月廿日酉書院由。寛政六
年六月廿日午死。指乘口与葬

勝久馬 幸次郎

正字の

正義 正武の男

寛政六年八月廿日の亥時。日

八年十月廿日初見

敬有虎紋

○長井

長井

高木百石

家紋 田之古文字
長井

長井孫右衛門正威次男

長井

正威

寛文三年十月廿八日初見
長井孫右衛門正威次男

持方上人持持。同元年十二月廿有
百後。之。元禄元年。○古以。下
中。人。經。以。相。執。二。百。後。合。三。百。後
○同元年六月十八日。○草。○
○宝永七年。○二月十九日。病。死。○正
徳元年。○六月廿六日。死。七十一。歳
市。之。長。た。因。坂。長。龍。と。て。葬

正徳

正徳右衛門

美。正。成。三。号
天和二年九月廿七日。養。子。○元禄
六年十一月九日。初。行。毒。二。百。五。十。後
○同七年八月廿二日。死。年。七。十。一。歳
○同。年。一。月。一。日。葬

正徳

正徳左衛門

元禄七年十二月十二日。又。初。行。毒。家
督。少。と。云。○同。年。同。月。十日。大

正徳元年九月十日従父
那の進場原水祖小く存存
二百俵もりし百本二百五俵の帳
○享保十一年九月初のち替りあり
○同十七年六月八日大沙番續次
○元文六年七月十九日拂方細戸
政。○享享二年十一月五日らるる御伊智
將軍宣下御用付格也。○同二年
十月十六日之方細戸政加積二百五

百本之百俵もり地方小取下之れ
の百本。○享享二年二月廿六日死
守口氣口年々く録

正典

本丸集 十次郎

和正信 元文元年六月廿六日死
○享享二年六月廿六日存存。○同
七月廿六日書信書。○宝曆九
年三月廿六日と初し付令と取
○同享七年七月廿六日存存日

年々衰

正等

正等

正等

正等 正等 正等 正等 正等

正等 正等 正等 正等 正等

正等 正等 正等 正等 正等

正等 正等 正等 正等 正等

正等 正等 正等 正等 正等

正等 正等 正等 正等 正等

正等

正等 正等 正等 正等 正等

正等 正等 正等 正等 正等

正等 正等 正等 正等 正等

正等 正等 正等 正等 正等

正等 正等 正等 正等 正等

正等 正等 正等 正等 正等

正等 正等 正等 正等 正等

正等 正等 正等 正等 正等

治政。○七年十一月十日
五月十日。○十一月十日
持娘。○十一月十日
昔。○十一月十日
年。○十一月十日

淑娘。○十一月十日
○十一月十日
○十一月十日

○十一月十日

○二年

○十一月十日
○十一月十日
○十一月十日
○十一月十日
○十一月十日
○十一月十日
○十一月十日
○十一月十日
○十一月十日
○十一月十日

信政

血陰九節 茶利九節 或記

法康君一もまゝに 諺云 天女の
以度く 戦切あり 戦場におる
くひく 徳一 血のけつこまき
かく 迎茶利と 血陰ふま智ひ
ゆまのらまゝく 改名
唐忠義前 忠海部 柳川の邊
而 輝くくひく 信長と 中谷

戦の首一 血陰 去取

屢次戦由朱栢翁より

東照宮と 神代本仕 之 飛之

十月十五日 之 死 日本書紀等

血陰九節 茶利九節 小十節

信宅

東照宮 本國也 故地 乃 節
神代 一 古 之 礼 婦 川 味 方 ケ
東長 隆 小 山 之 休 田 中 掛 川
長久 乃 神 代 元 信 年 中 也

小字一々 徳合之なるあり

東照天皇之御一々 皇孫九命之政

名 伊波有田少神二氏紋有田郡乃三宮故有田郡多
中務左衛門尉長坂皇孫方之御孫何の宮有田家

○之別類田郡少々 智りお飲の
系々を別出のよ又口家々々々

伊波有田之皇孫伊波有田之御孫

○天正年中甲別出又の御孫

伊波有田之穴山梅島伊波有田

一伊波有田又伊波有田は三首

梅雪と和中小岩京地産之左京

追々出之思ひ出さる梅島伊波有田

伊波有田之御孫

信宅一伊波有田

神皇御記馬御孫

伊波有田之御孫伊波有田之御孫伊波有田
長坂皇孫方之御孫伊波有田 長坂皇孫方

伊波有田之御孫

相傳。甲別出之御孫伊波有田

忠告

血塗九郎長兵衛

小十郎
源右衛門

信宅家督相続

東照宮上

大猷院殿と西代沖目久信宅家

續中為家一領分作付し是

より于石八長依も重子に

中勢左衛門長末長坂血塗信清

友也

一正

持七郎

茶利九郎

實 信宅男

香子作付し此後六百石相

續仕置り有し是とがりあり

長持大なる者。是長年中

右徳院殿信長其田沖原信長末

より為急御正法中依しと勅

以者大坂にては穿鑿あり是

慶長年中島田
御所にて
十月十八日
片岡重光
〇實年六月廿
七日
御所にて
片岡重光
〇實年六月廿
七日
御所にて
片岡重光
〇實年六月廿
七日
御所にて
片岡重光
〇實年六月廿
七日

沖口の西に海城を築き居たり
す、此處松平大頭領が陣の所
松平丹後守組の兵作りの松平
長平は原の節に依り番代り
爲りて丹後守に依り仕たり。
寛永九年三月九日此の處
に攻めしむる松平大頭領は合
ちて石を以て。正保二年に
女十九年三月に京市へ名長

電奉行一書

伝次

丹波守・おとせ 一傳
駿河國おとせ
東照大御所御所
おとせの孫おとせ
名傳院御所住
寛永九年三月
令二十あるに八月八日

半人改。同十八年十二月十六日
先づ此後地改。日光寺宮内
重清奉行。作并ふ。是後を以
同十九年。出羽同頭。正保。之
乃以二十。小栗長吉。又定。之
ひ。之。并。之。死。正。保。之。年。海。の
上。女。傷。ふ。地。之。一。様。死。少。年。高
少。石。之。之。之。之。存。絶。年。之。千
之。年。之。之。之。之。年。

信時

室語

大坂。陣。の。夜。河。野。森。之。小。を
誠。後。若。敷。通。之。之。之。之。之。
石。之。之。之。之。之。之。之。之。
少。將。之。之。之。之。之。之。之。之。
之。之。之。之。之。之。之。之。
東。之。之。之。之。之。之。之。之。

少将敏西家人高田宗依少将
少将宗依重頼并少将宗成少将
惟子少将宗成并少将宗成
少将宗成

十部五坊

信俊

美 天野重光与长俊男
香子家智。宗成组。万治二
年病歿。元禄八年十一月

死七十歳。以年了。葬

血陰 丸糸布

信経

元禄十年二月十八日宗成组。
家智。宝永六年八月十日死六
十歳。以年了。葬

式部

信一

宝永六年八月六日宗成组

四年八月廿日
之百依の女曾百来木之依ハハ
○少考後享保十年の十月廿六日隠岐。
口千巳年ハ千九百九日早ニ
口千巳年ハ千九百九日早ニ

信令

控七席 八次席

實 而施逸信名奉主後男

養子。享保十年十二月廿六日
安督。口千巳年二月廿五日

信胤

十布云湯 控九席

宝曆七年七月廿二日家信。口千巳年
十月廿一日書伝。口千巳年
口千巳年八月十八日

信義

頼母 控九席 血統九席

東照宮

長坂

凍姓

家紋

三階菱
六三桐

長坂無給九節位及惣伏九節

改明号

次右衛門 五郎左衛門

序利

東照宮(在任大坂市陣出伏。元

永元二年八月廿九日某田修理
幕下少々掃取以之

房春

仁皇請改所居坊名爲春

仁皇院殿所代西田地一所

大正八年七月廿日初九日
年六月九日古名
役西切木百石位或人持持坊
○竟永二年十一月九日死

大正八年七月廿日

房元

大正八年七月廿日

竟永十二年十二月廿日初九日
○兼永十二年十二月廿日死

房晴

大正八年七月廿日

慶安二年七月廿日初九日

山崎重成。明應二年十月
其日家督。天和二年二月五日
半人。元禄八年十月五日病免
。宝永六年九月廿二日死。年六

澄命

次郎云海

元禄元年十二月廿八日半人。但。日七
年正月唐采石依後人桂持。
宝永元年十一月廿七日家督兼

高木好公。享保二年七月廿
病免。日九年十月七日死。年
二系回年八系

房成

次郎云海

享保九年十二月廿七日家督。同
十二月廿二日死。年二系回
年八系

房義

次石鳥 平助 又春

享保十三年十二月廿七日
家傳。同平一年四月廿七日
人組。寛延二年八月廿八日
。享保九年十二月廿九日
同平一年二月廿七日
七十系口

房貞

仁玄 又春馬 傳之助

安永九年十二月廿九日
二年二月九日
七月九日
廿二日

東照之印代



長坂

三三石



源姓

長坂尾内松尾
義光

義光末孫小室宗大孫守持長
之男長坂九郎清成末孫三郎
長坂三郎九郎長坂氏嫡男

春治

三郎九郎

天保元年三月丙午
東遊道(百) 志(百) 行(百) 道(百) 初(百)
乃(百) 休(百) 休(百) 休(百) 乃(百) 休(百) 休(百) 休(百) 乃(百) 休(百) 休(百) 休(百)
あ(百) 乃(百) 休(百) 休(百) 休(百) 乃(百) 休(百) 休(百) 休(百) 乃(百) 休(百) 休(百) 休(百)

傳千席

春勝

志(百) 乃(百) 休(百) 休(百) 休(百) 乃(百) 休(百) 休(百) 休(百) 乃(百) 休(百) 休(百) 休(百)
あ(百) 乃(百) 休(百) 休(百) 休(百) 乃(百) 休(百) 休(百) 休(百) 乃(百) 休(百) 休(百) 休(百)

春後

新右衛門

右衛門殿(百) 乃(百) 休(百) 休(百) 休(百) 乃(百) 休(百) 休(百) 休(百) 乃(百) 休(百) 休(百) 休(百)
〇(百) 乃(百) 休(百) 休(百) 休(百) 乃(百) 休(百) 休(百) 休(百) 乃(百) 休(百) 休(百) 休(百)

東福(百) 乃(百) 休(百) 休(百) 休(百) 乃(百) 休(百) 休(百) 休(百) 乃(百) 休(百) 休(百) 休(百)

日(百) 乃(百) 休(百) 休(百) 休(百) 乃(百) 休(百) 休(百) 休(百) 乃(百) 休(百) 休(百) 休(百)
乃(百) 休(百) 休(百) 休(百) 休(百) 乃(百) 休(百) 休(百) 休(百) 乃(百) 休(百) 休(百) 休(百)
己(百) 乃(百) 休(百) 休(百) 休(百) 乃(百) 休(百) 休(百) 休(百) 乃(百) 休(百) 休(百) 休(百)
葬

春勝

新右衛門

の巻二〇二日甲子日家督又可の
〜。延宝六年十一月三日
薨御後大津津由親重の孝元享
保九年八月廿九日死八孫之系武
列 津川 印松云云〜 齋

巻軌

新八郎

元禄六年十一月三日西勘定百人
松儀。同十一年十二月廿五令限

吹替より利如秋乃孫儀合二百儀
○同十二年四月廿八日死 年々系
同寺の系

津千郎 島千郎

基係

美 老河原
元禄七年四月廿九日享死
少勘定。元永二年十二月廿八日
拂方出納戸。同八年四月廿九日

一部は信長孫孫想文自孫儀
収公

明末のことにさへて後見の事
を授。二應徳六年十月廿九日

百章院殿より

法皇御所八十宮一内経納西用
翌年正月十五日西時下
今或後部へ金之程あり日本
同二月十五日御湯。喜保日記
九月十八日押方近御戸總次。
同三年同月日先の内儀出御戸方

一向田用御所へ札張存後。

同九年八月廿六日

法皇院殿西用人。元文二年二月

十八日常々表御所へ勅

法皇院殿西用人。元文二年二月

九月廿一日。表御所へ勅。元文二年

九月廿一日。表御所へ勅。元文二年

二月廿二日。表御所へ勅。元文二年

其六日死。後之氣。以子之氣。

春豊

山深太

元文三年十月十八日出奔

春富

惣太希

元文三年十月十九日改号惣太

○寛文三年十二月廿六日大出奔

以切米三百石。至曆二年九月

三日出奔

初八節 左六節

春清

庚 秋 疎 長 平 所 出 行 男

宝曆三年九月十日解年者子。

日中三年三月廿九日存信。西和

二年七月八日拂方出納戸。以子

了了午日初之由。日九年

二月廿九日。以子大納戸。以子

万承天子... 元年十二月... 年... 二月... 三月...

春頭

顯成

二月... 三月...

的如七年七月... 二月... 三月...

日本三月廿九日... 二月... 三月... 四月... 五月... 六月... 七月... 八月... 九月... 十月... 十一月... 十二月...

同平同十月廿六日山畑戸。同八
年同月一日山畑戸の左物小。
同十月九日山畑戸の左物小。
同十月九日山畑戸の左物小。
同十月九日山畑戸の左物小。
同十月九日山畑戸の左物小。
同十月九日山畑戸の左物小。
同十月九日山畑戸の左物小。
同十月九日山畑戸の左物小。
同十月九日山畑戸の左物小。
同十月九日山畑戸の左物小。

八月十七日

昔より山畑戸の左物小。
同十月九日山畑戸の左物小。
同十月九日山畑戸の左物小。

某

享和二年七月廿六日書入

東照宮御代

長坂

源姓

家紋

丸内松後菱
花菱

高武百依

長坂九郎清成流胤之可國

長坂孫七郎正妻嫡子

孫七郎

正親

天正十年八月廿一日

東照宮へまゐりし初賀式百後
幼少奉仕。慶長十七年正月
十日死七十一歳

正芳

生七席

生七十七の正月百後。
西成本あり。慶安元年正月
八日死七十七歳。淡路大松生
葬

貞朝

生七席

慶安元年正月百後。小倉藩
。元禄四年二月八日死。中津藩
葬

正朝

生七席

元禄四年七月五日。中津藩。西
御免。享保十二年閏正月十日

山本春行。同平六年二月十七日死
平六氣口寺一葉

孫七郎 幼少命

規貞

天 甲府の士 具野次郎之請孝道男

正徳元年二月廿一日卒。享年五十二。

享保元年七月廿一日。幼少命。

同平六年六月廿一日。家督。元文

二年八月廿二日。病歿。宝曆三

年八月廿七日。死。享年八十九。氣口寺葬

信口郎

改貞

寶曆二年十一月廿一日。卒。享年同

十一年六月廿二日。初。在。中。人。組。の

和。心。に。月。二。日。初。由。為。あ。承

久。年。に。月。日。之。由。依。言。心。心

十二年十二月廿二日。病歿

物貝

徳七郎傳之助

寛政三年八月廿一日

致

[Faint handwritten text, likely bleed-through from the reverse side]

東照宮御水

長坂

三浦倭少左衛門

源姓

長坂九郎松川養

長坂九郎清氏謹胤

源六郎

来

新長坂少佐長坂氏之次
三浦の城之跡木口向与諸下

あしきしふ

東照宮も流りき稲殿へ河原も
り夜中足元流流地にくるあしを
流る希ちあしねた先と
を流地り巻麻と時後

東照宮も下と河原見あしと河原
地と道へ出さ道計のふた
業かもしあし流流地と道
斗舟は流流河原と河原

もも河原へ河原見あしを流
り流流地と道計のふた
業かもしあし流流地と道
斗舟は流流河原と河原
あしねた先と
を流地り巻麻と時後
東照宮も下と河原見あしと河原
地と道へ出さ道計のふた
業かもしあし流流地と道
斗舟は流流河原と河原



一々知り物事少細なる事あり
死少く任事少く成る事あり
弘一上下縁り大事の所あり
少く深心脚より清なる事あり
一竹竹あり一竹竹あり
深心脚より清なる事あり
赤く長年八月快く行城
たて建つ事あり

系

赤石建

意永元年(建永)古くより
以書作ありて百位人持物下
より。病死少く成る事あり
弘一。建永二年(建永)より
赤石建八月(赤石)赤石建

系

赤石建

延享二年家督世同升の紀を
及。以て〇上戸八日表たし之由
。奥火之書。以て書。老免
。享保二年十月九日信成。日
。享保二年八月廿八日年々發

資愛^{ナカ}

長石建

實一子長石建。信昌之男
享保二年八月廿八日年々發

年十月九日家督。〇〇年
二月十日
作地志江屋家海番。〇〇年
〇〇月〇日田安山人。〇〇年
年二月十日病免。〇〇年
七月廿二日死。年々發

資愛

長石建

庚申年十月廿八日年々發

正享元年十月二十日高直子友
魯。宝曆十一年十二月九日死
中人祖。同和元年十二月十七日
死。卒。不氣。以年一十一歳。

高直子友

寶曆

明和元年十一月廿二日安直。あはれ
元年十二月廿二日初見。天明
二年十一月廿二日初見。天明

○正享元年十月廿二日初見。天明
元年十二月廿二日初見。天明
二年十一月廿二日初見。天明

高直子友

寶曆

正享元年十月二十日高直子友
魯。宝曆十一年十二月九日死
中人祖。同和元年十二月十七日
死。卒。不氣。以年一十一歳。

致仕

實心

之氣

實心 社長久松為三郎

貞治十年九月廿七日養子。同

年十一月廿九日存稿

[Faint bleed-through text from the reverse side]

常憲海康

高敬

高百平儀

法性

長政

車内或大所
松竹美

長政丸島入道長宗より交代

法性

常遊

高敬

實心永年二月廿日廊下書
長宗より百平儀下出候。

○日永年二月公至之四月番。
○屋之○六月一日少重信。喜原
十八年六月廿九日隠居。喜原
子○りより紀乃年或兼下者
一重信了人辭

清々坐 宗運

高福

○喜原十八年六月廿六日家終
○是喜之○りより隠居。

○喜原九年二月毎日死六十年
因年以終

忠七郎 松之師

高美

○喜原九年八月廿一日家終。
○日永十月十日春山喜原。喜
原に○りより八月廿一日家終
○喜原九年六月廿九日家終
石原喜原。○りより喜原

布衣。同八年四月廿六日。行本
居表。同九年。改。天。明。之。子
六月廿五日。死。其。子。古。多。氏
从。同。年。同。日。行。本。居。初
同八年。二月廿五日。死。其。子。古
氏。年。一。十。五。

忠七郎 活七郎

又 胡念也 平所 系保 男

丁卯七年。七月。庚。午。日。卒。年。七。十。
同八年。二月。廿。六。日。卒。年。七。十。
丁卯七年。二月。廿。六。日。卒。年。七。十。
同八年。二月。廿。六。日。卒。年。七。十。
丁卯七年。二月。廿。六。日。卒。年。七。十。
同八年。二月。廿。六。日。卒。年。七。十。
丁卯七年。二月。廿。六。日。卒。年。七。十。
同八年。二月。廿。六。日。卒。年。七。十。
丁卯七年。二月。廿。六。日。卒。年。七。十。
同八年。二月。廿。六。日。卒。年。七。十。

正月十日卯刻行書院番。日
十五年二月十日帳夫地所用日
其八日山崎合全三夜可推不誤
○以十年了正月其二日之光
相視。因○七月三日在公及

東照宮殿代

長瀨

藤原雅

高百孝康五持持

家我丸内三鱗

先祖不詳

傳藏

正治

天正十三年二月於安國寺被

百五十年俵五枚持身名
相動開東山金細如持身俵
元和九年二月十日并葬淺草
源字寺

四行園

正次

元和九年七月家督三度○寛永

十一年七月出立目付○同十七年
新親押中太鼓役○正保年中
加扶五十年俵合百五十年俵五枚持
○寛文十三年九月三日并葬同

四行園

正吉

延寶元年十二月家督○
寛永○

口三年押入大船投○元禄十四年病
之○口十五年十二月死在○享保
二年四月出○此葬回寺

勤修園

西也

元禄十五年十二月多持持○實坐
年七月口死五氣○享保四年青

八口死葬回寺

四口死

西榮

浪人實者長藤武衛門某長曾

享保四年七月十二卷子多持○
享保二年十二月廿日實其子實
藏事○享保九年十月十九日作

鷹匠○元文三年八月廿四病免
少養信○延享五年四月廿九卒
三子長子孫同也。

肥

久遠

彦彦

宗体

延享五年七月家督○寛延三年
四月八日卒。○寶曆九年閏

七月廿三日病免。少養信○明和五
年十一月廿三日卒。○天明元年
七月廿四日卒。○享和二年六月廿九日卒。
同寺

改史

藤田

四郎

曾若土山在若國。少祖

後正 召教少孫傳入遍塞。○同八年正月
公遍塞之。○實政八年八月廿日
取教也

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

大猷院殿御代

長山

高千之百孝名

藤原姓

家教 丸内須磨
每美百孝名

先祖不詳長山公傳門道首真前田孫
昂方馬之致右道首女子

乙不

女子

大藏院殿代少廣座敷中守公以山立

舊昌院跡

常憲院殿迹 山延生山為中乳、木格

。延寶五年八月十七日、元八年夏葬

田畑中里村圓勝寺

美子 山延生山為中乳、木格

久右衛門

直政

弟之孫、以家子成。○萬治五年

於神田、殿初見。○山延生之百俵

。寛文九年正月十四日、名川山延作

留居居後。○延寶四年七月廿三日、元

十三日葬葬同寺

孫三郎

直利

寛文三年神田中殿北百廿八
姓三郎。寛文十年正月比納戸
足兼五才俵。延寶四年足兼。
同八年正月二反出納戸。同年
十月廿五加秩三百俵。前足兼
山崎足兼外孫也。子五郎下合五

百廿八石。天和元年十月十八
降徳后殿納戸。同三年同
正月廿二納戸。同五年同
通中納戸。貞享二年二月四日書
請入。同三年十月十八日大書。
同四年正月廿二納戸。同五年
正月廿二加秩三百俵。同七年二月
十。加秩三百俵。同十年右之百俵

城乃成下。○四年三月廿七日。
寝言石合千三百五十六。○實永
四年十月十日。病中少善清。○正
德四年九月十日。九年十一月廿五日
回寺

羅君國門

直破

延寶四年被 羅君中八。○四年

甲午年三月庚。○天和年年初。直
○日解中須在 羅君之首集。○直
享三年十月十八。大書。○實
永四年七月十日。於大坂北野并
日所長安寺。○四年十月十四
羅武建長子直張。直破。直破。

山寺房九所

直次

延寶四年七月神田殿中書院...
某人之...
上之...

永女

直與

寶永三年十月廿九日...
二年...

里圓勝寺

彌三郎

淺丞

直張

伯父直破...
十月...
口...
年十月...
婦子...

七の養子に作其依、百極を断
○延徳四年十月廿九、多智○京
保元年十月十八、中書院五○同
十七年十月廿九、元四年十月廿九
同寺

直幡

積成

百助

享保九年九月初見○日永七年
十月廿九、多智○元文四年十月廿九
中書院五○同曆四年十月廿九
同寺○同月廿九、布衣○同寺
九月、監府七、多智○明和三年十月
十五、同先○山無物以○同寺十月
廿九、盜賊改路加授○同寺十月
廿九、同定加授○同寺十月廿九

〇同四年十月四日
 〇同七年四月部也暇
 〇同八年五月奉府省之。安永
 元年四月部也暇。〇同二年三月十
 五。奉府省之。〇同年十月五日
 〇同四年四月十九日
 〇同五年二月十七日。病免。〇同
 〇安永三年四月部也暇。〇天明元年

八月三日。北。七。午。二。云。新。其。并。同。子。

直鄰
 百部
 鉄了也

〇同四年三月十八日。初。〇安
 永三年四月部也暇。〇同
 〇同二年三月十日。〇同
 〇同元年四月部也暇。〇同
 〇同元年四月部也暇。〇同

〇天明元年三月十日。〇同
 〇同元年四月部也暇。〇同

孫

彌三郎

陽三郎

直之

寛政四年四月七日葬。○同葬有

廿五月初九

常憲院殿御代

長沼

高七才儀五森持

藤原姓

家教五三三也

先祖不詳

佐助

直改

寛永四年五月二日院中入。

寛保十一年四月二十九年二月
并麻布龍土法庵寺

宗右衛門

改武

寛保十一年二月十八日
入。元文二年九月十三日
○寛保三年二月

兼同寺

千右衛門

貞英

寛保三年九月
年五月廿八日
○安永
○寛政

二年七月九日
十月廿九日
八月廿九日

天明七年九月十二日

曆九年八月十日

十月廿九日

十一月廿九日

十二月廿九日

信濃縣中野藩中野藩中用古銀五

枚○同年八月廿九日

信濃縣中野藩中野藩中用古銀十

枚○同年八月廿九日

信濃縣中野藩中野藩中用古銀十

大納言殿山内藩中野藩中用古銀十

同十三年八月廿九日

同十三年八月廿九日

山殿金千兩山應負金千兩。同
四年。明和三年。日走。

東照宮百五由之志。山用古動
山殿金千兩。應負金千兩。明和三年
於山野。尚流。山用古動銀三
枚。同三年。

山殿金千兩。山用古動銀三
枚。同三年。

大納言殿山殿服山官。山用古動
銀五枚。同四年。千住大橋城直
山殿。山用古動銀七枚。同
五年。同三年。山殿。表。山殿
山殿。山用古動銀三枚。同七年
大納言殿。山殿。山用古動
相動。山銀三枚。同九年。山殿。三
年。山殿。山殿。山殿。

馬助

敬書

寛政八年十月廿七日
早
年十月廿七日
持格文配甚之出役

櫻田御殿

○ 長野信

藤原姓

高六百石

家教 鉦三引花菱

尾張國在道州守見信方長由御田
去野及信包家長長野治西方官

治多團

某

身月不古於權泉殿 正德以後
六百〇。延寶二年對卷二百卷。〇
五年四月十日。元七年。元正。元
中瑞輝子。

在左園門 治元典

廣門

年月不古於權泉殿 大正性。

延寶三年。元正。〇天和三年。元正
〇貞享元年。元正。〇同治
〇同治三年。元正。〇
元祿二年。元正。〇寶
永元年。元正。

文照後殿。元正。〇入首。元正。元正。元正
大。元正。元正。〇同。元正。元正。元正
相。元正。元正。〇正德三年。元正。元正。

丁卯年先皇御遷都。○國曆十月
八日。葬井田寺。

化地也

廣行

身日不吉於櫻の殿部屋住被
召之召後。○正徳元年二月
十七日。葬井田寺。

作中

廣正

初之○正徳元年五月廿五日
又部屋住。○召後。下。○無傳
○同四年十月廿五日。嫡孫承祖
家督。○召後。四年十月廿五日
死。葬井田寺。

正春

権助

南条村越権平叶重長次男

享保四年四月廿八日審子家持。少普

情。同十五年十月九日。元二年二

年。同寺

至馬

森松

廣路

享保十五年十二月廿七日家持。○

寛保三年九月八日。示性。○

宣曆五年七月廿六日。元二年二

年。同寺

新之助

正好

備曆五年十月廿三日。○明和
五年八月十日。○死三年。○安永同

佐九郎門

勝次郎

孝祖

曾孫松平德尚。○昭友。○留

延享三年九月十九日。○養子

明和五年十月。○養子。○安永

○同年十月五日。○初見。○同七年

八月十日。○西丸中。○實段二

月。○山。○同七年三月五日。

○大屋。○將。○同七年三月五日。

○同八年十月十日。○西丸勤

櫻田御殿

長野

高百俵

在倉姓

家茂権内扇

長野助國春綱四代

善士夫

重恒

元禄十二年七月九日長恒御殿

日殿出若老。四年八月朔初見。
○八月廿五。百俵五火扶持。○實
永七年十二月廿九。加持有。○
二百俵。○實保三年七月十九老
之。○實保三年七月十九老
三月廿六。九八。○實保三年
白銀西照寺。

源次郎

業

實保元年九月廿六。初見。○四年
年七月廿六。○實保元年七月廿六。○延
享元年四月二十。○實保元年七月廿六。○實曆
二年三月廿六。○實保元年七月廿六。○實曆
家督。○明和三年八月廿六。○實保
安永七年八月廿六。

八百九十五年壬午系年同

源藏

業改

宣曆九年十月 富内殿才
人。回野大^撰番。安永七年閏
七月十九日

業盛

善三郎

明和四年十月九日初見。安永
五年十月十九日。山古老。同七
年十月廿五日。家辨。實政五年
閏七月十九日。同九年十月
八日。同八年。同寺



葉廣

又吉印

實政九年十二月廿三日



葉廣
實政九年

